

(2) キャリアステージに応じた研修体系の再構築に向けて

キャリアステージに応じた研修体系の見直しにあたって、養護教諭研修に求められる役割から、3つの視点を考えました。

視点① 養護教諭が自分の将来を展望することができるか。

養護教諭には、学校保健活動の推進に当たって中核的な役割を果たすよう期待されています。この役割を果たすためには、養護教諭研修が、養護教諭の職務として中教審答申（H20.1）に挙げられている保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営及び保健組織活動において、求められている養護教諭の役割に対応した研修内容を経験年数に応じて実施する必要があります。

また、養護教諭研修は、実践期（1～10年目）の養護教諭が、充実期（11～20年目）、育成期（21年目以降）のミドルリーダーや指導的立場に自身が高まっていくことを見通し、キャリアごとに自己課題を見付け、その解決を図ることができる内容を有する必要があります。

視点② 養護教諭が専門性を高め続けることができるか。

子供たちの現代的健康課題解決のために、現在、自身がもつ知識・技能を確認したり、新たな医学的・教育的知見を獲得したりする学びを継続していくことが重要です。養護教諭研修が、現代的健康課題に対応する知識・技能の熟練や習得を助ける場となる必要があります。また、養護教諭それぞれの学校の健康課題解決に活用可能な実践的な研修にすることも重要だと考えます。

視点③ 養護教諭が学びのネットワークを広げることができるか。

養護教諭の年齢構成の不均衡を是正するため、充実期（11～20年目）、育成期（21年目以上）の養護教諭が、これまで築いてきた実践や研究の成果を次の世代に伝える機会を研修に組み込む必要があります。

養護教諭研修に、メンター制度の考え方を取り入れ、実践期（1～10年目）の養護教諭の成長及び充実期（11～20年目）養護教諭以降のミドルリーダーや指導的立場となるため、資質能力の積み上げを支える環境作りが重要です。

これらの3つの視点について、表1のとおりアンケートを実施し、養護教諭研修体系を考察しました。専門研修は、養護教諭の専門的かつ実践的指導力の向上を図る希望に基づく研修です。

経年研修は、養護教諭の経験年数に応じ、保健室運営及び今日の課題に対応できる専門的知識や技能を高める必修研修です。

表1 研修体系再構築に向けて、実施したアンケート一覧

養護教諭経年研修に関するアンケート (視点①、視点③の考察に活用)		教育センター研修講座受講者アンケート (視点②、視点③の考察に活用)	
対象者	実施人員	対象者	実施人員
1年経験者(H28.8.8実施)	13名	養護教諭専門Ⅰ講座受講者 (H28.7.5実施)	57名
2年経験者(H28.8.8実施)	7名	養護教諭専門Ⅱ講座受講者 (H28.10.11実施)	22名
3年経験者(H28.8.8実施)	6名	性的マイノリティの理解と対応講座 受講者(H28.9.20実施)	70名
10年経験者(H28.8.8実施)	8名		
合計	34名	合計	149名